

平成28年度学校自己評価システムシート (県立児玉高等学校)

目指す学校像	生徒の可能性を伸ばし、「知」「徳」「体」のバランスのとれた生徒を育成し、進路希望を実現させる、地域に根ざした学校
--------	--

重点目標	1 学習指導の工夫により、主体的に取り組む態度を養い、基礎学力の向上を図る。 2 開かれた学校づくりを推進し、地域から信頼し愛される学校を目指す。 3 基本的生活習慣と規範意識を向上させ、部活動や学校行事をとおして学校を活性化する。 4 キャリア教育の充実を図り、生徒自らが主体的に進路選択し、進路希望を実現させる。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価(2月3日現在)	
年 度 目 標					達成	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策
1	・様々な学習歴や生育歴を待つ生徒の基礎学力の向上が大きな課題である。高校入学後の早い段階で学び直しや分かりやすい授業の実践で、生徒にわかる喜びや達成感を味わわせ、自主的に学力を向上させる態度の育成が必要。	・「学び直し」のシステムづくりと基礎学力を向上。	①「学び直し」システムの構築と各教科による基礎学力の向上。 ②わかりやすい授業の工夫や改善と成績不振者減少のための補習指導の充実。 ③授業改善に向けた管理職や教員相互の授業観察の実施(年2回)。 ④一般常識テストの実施(年2回)。長期休業後の課題テストの実施(年3回)。 ⑤各種検定の受験者数と合格者数の増加。	①生徒アンケートによる「補習体制の充実」肯定80%以上(昨年76.1%) ②成績優良者と不良者の前年比10%向上、10%減少(昨年35.3%向上、4.7%減少) ③生徒アンケートによる「わかりやすい授業」肯定70%以上(昨年63.4%) ④1学年2学期末評価平均の向上、評定平均:2.9以上(昨年2.91) ⑤生徒アンケート「資格取得について積極的である」肯定80%(昨年63.3%)	「学び直し」の取組が共通理解され今後の取組が明確になった。わかりやすい授業や補習指導で1学年2学期評価が向上した。 ①補習体制充実76.5%(+0.4%)肯定 ②成績優良者23.9%減少、不良者15.1%減少 ③わかりやすい授業66.1%肯定(+2.7%) ④1学年2学期評定平均3.02(+0.11) ⑤資格取得に積極的62.6%(-0.7%)肯定、検定試験受験者減少	・「学び直し」の効果は徐々に成果が出てきており、次年度の取組の方向性も明確になった。教育課程を含め「学び直し」の取組の具現化を今後さらに検討。 ・資格取得について、具体的な方策を探る必要あり。
2	・平成26年度より積極的に取り組んできた学校HPの充実や学校だよりの地域への回覧。平成28年度より近隣小学校や保育所、地域との交流事業など、開かれた学校づくりの成果を上げてきた。今後さらに、充実・継続・発展をさせることが重要。	・学校HPの充実や小学校及び保育所、地域住民とのさらなる交流をとおした学校教育活動を積極的に発信し、開かれた学校づくりの推進。	①学校HPや一斉配信メールを活用し、保護者や全世界への情報発信。 ②小学校や保育所、地域との交流の拡大。 ③学校説明会等の開催情報のわかりやすさを重視。また、参加者ニーズを踏まえた、時期や内容の検討と充実。 ④「児玉高校だより」を回覧し、地域住民への積極的な情報発信。 ⑤文化祭等、学校行事への参加を保護者や地域住民に積極的に呼び掛ける。 ⑥バス会社と連携し、スクールバスの効果的運用を検討し、利用者の拡大推進。	①学校HPの更新を毎日実施(昨年1.3回/1日) ②生徒や教員を近隣小・中学校に派遣するなど、交流事業を年5回以上実施(昨年5回) ③学校説明会等の参加者数400名以上(昨年410名) ④自治会への回覧依頼を年5回以上実施(昨年4回) ⑤保護者アンケート「地域や保護者に情報提供を積極的に行っている」肯定75%以上(昨年69.3%) ⑥登下校のスクールバス利用生徒数の増加とスクールバス利用機会の増加	近隣小学校との交流事業や各セッションでの積極的な情報発信を行い、目標をほぼ達成し開かれた学校づくりを推進した。 ①HP更新回数1.42回/1日(+0.12回) ②小学校との交流事業を3団体計8日間実施 ③学校説明会等参加者数491名(+81名) ④自治体回覧板年5回実施 ⑤情報提供を積極的60.5%(-8.8%)肯定 ⑥スクールバス利用者数436名(+48名)利用機会を2回追加設定	・実施2年目の「夜の個別進路相談会」参加者数が大幅。さらに本校の学校説明会を拡大し、生徒募集に繋げる。 ・保護者への情報提供について方策を検討すべきだ。 ・スクールバスの利用者数の拡大に向け、課題を明確にし、改善すべきだ。
3	・長年粘り強く取り組んでいるため、基本的生活習慣の確立や服装、頭髪等が徐々に良くなってきている。さらに成果を上げるために、学校行事や部活動等を充実させ、自らが規範意識を高め実践する生徒の育成が課題。	・学校行事や部活動の充実と規範意識の向上。	①学年集会を毎月実施し、基本的生活習慣の確立と服装や整容指導等の徹底。 ②生徒指導部を中心に据えた全職員による登校及び下校指導、遅刻指導、校内巡視の実施。 ③生徒会の主体な取組による学校行事の活性化。 ④部活動の活性化と活動成果の向上。	①生徒アンケート「服装・頭髪指導等生徒指導が積極的」肯定95%以上(昨年88.5%) ②生徒遅刻回数(1・2学期)の昨年度比10%減少(昨年11.8%増加) ③生徒アンケート「各種行事が充実」肯定80%以上(昨年73.9%) ④部活動参加者数増加と大会等成果向上	生徒会役員が増加し学校行事が充実し、部活動参加率49.3%だった。整容指導の徹底により規則を遵守する意識が高まった。 ①生徒指導が積極的90.1%(+1.6%) ②遅刻回数-3.5%(昨年度比) ③学校行事が充実73.4%(-0.5%) ④全国大会1部出場	・昨年度に締結した女子栄養大学との高大連携事業を次年度以降も継続し、生徒、保護者、地域への活用を検討していくべきだ。 ・基本的生活習慣の確立に向け、さらなる取組を強化していく。
4	・進路についての関心はあるが目標実現のための行動が伴わない。1年生就労体験活動の充実を図り、できるだけ早い段階で、勤労観や職業観を養い、段階的に指導を積み重ねることが重要。	・生徒全員の進路実現の達成。	①就労体験活動での勤労観や職業観の育成。 ②進路指導部と学年とが連携し、進路指導のしおり「メゾ」の有効活用。 ③3年生のバス企業見学会、分野別分科会の実施をとおして進路意識の向上。また、ハローワークや本庄商工会議所等の外部機関との連携の強化。	①アンケートによる就労体験活動の肯定意識の向上(昨年度91.6%) ①中途退学者の減少(前年度比10%減)(昨年5.6%減少) ②生徒・保護者アンケートで「生徒一人一人にきめ細やかな進路指導」肯定75%以上(昨年66.0%) ③学校幹旋の進路実現100%(昨年100%)	・1年生就労体験事業により勤労観や職業観が向上した。学校幹旋の進路実現100%(3/21現在)であった。 ①就労体験は充実95.4%(+3.8%) ①中途退学者数前年度比19%増加(3/21現在) ②進路指導はきめ細やか59.0%(-7.0%) ③進路未定者0名(3/21現在)	・就労体験事業と進路ガイダンス機能をさらに充実させ、進路実現に向けた取組を行う。 ・進路未決定者の原因分析等、生徒の実態に即した指導の検討。

学校関係者評価	実施日 平成29年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	・女子栄養大学の指定校推薦において、推薦条件となる科目の単位修得のために、多くの生徒が履修する機会を得ることができるように教育課程を整備してほしい。 ・進路実現のために、資格取得を生徒に奨励してほしい。特に、ワープロ検定の資格は持っていると思える。
	・進学相談会等の名称について、中学生対象なのか高校生対象なのかを明確にしてほしい。 ・小学校との交流事業、通学路清掃やバスケットボール部女子の清掃活動等について、本庄ケーブルテレビに取材してもらい地域社会へ情報発信したらどうか。 ・地域の人々は登下校中の生徒の様子をよく見ている。生徒の態度が学校のイメージを左右する。良い面を見せられるように努力してほしい。 ・ロータリークラブとして、児玉高校生徒会をバックアップしていく。
	・行事参加率の増加など生徒会が中心となった工夫により、児玉高校の生徒が頑張っている姿を中学生にPRして、志願者増に結び付けてほしい。 ・生徒の個性、能力や規範意識を育成するために、生徒アンケートで肯定回答が低下した項目について適切に対応してほしい。